芥川龍之介「切支丹物」にみられる外来語・外国語

岸本 恵実

０．はじめに

本稿は、芥川龍之介（1892-1927）の著作のうち、キリシタンと関係の深い一連のいわゆる「切支丹物」にみられる外来語・外国語を、『芥川龍之介全集』（岩波書店 1995-1998、以下『全集』とする）にもとづき抽出し、作品ごとに一覧にして示すものである。

芥川の「切支丹物」については、主に文学の分野で典拠論を含む数多くの研究がある。芥川の外来語使用に関しては楳垣（1964）、池田（1991）（1993）などの研究があるが、いずれも概観にとどまっている。本稿は、芥川が参照した数多くのキリシタン関連資料をさらに明らかにし、明治・大正期におけるキリシタン研究史の一面を把握することを目指して作成した。

１．芥川の「切支丹物」一覧

本稿で「切支丹物」として調査したのは以下の 16 点である。

芥川龍之介の「切支丹物」一覧

	作品名	初出年・月
(1)	「悪魔と煙草」	1916.11
(2)	「尾形了斎覚え書」	1917.1
(3)	「さまよへる猶太人」	1917.6
(4)	「悪魔」	1918.7
(5)	「奉教人の死」	1918.9
(6)	「るしへる」	1918.11
(7)	「きりしとほろ上人伝」	1919.3, 5
(8)	「じゆりあの・吉助」	1919.9
(9)	「黒衣聖母」	1920.5
(10)	「神神の微笑」	1922.1
(11)	「報恩記」	1922.4
(12)	「長崎小品」	1922.6
(13)	「おぎん」	1922.9
(14)	「おしの」	1923.4
(15)	「糸女覚え書」	1924.1
(16)	「誘惑」	1927.4

「切支丹物」（「キリシタン物」「吉利支丹物」などとも表記され、「南蛮物」と称されることもある）の定義と範囲は研究者によって異なるが、本稿では海老井（2002）を参考としつつ筆者の定義により、16 世紀から 17 世紀の南蛮文化と関わりの深いものを対象とした。したがって、日本のキリシタンは登場しないもののキリシタン資料の文体を借りた「きりしとほろ上人伝」を含める一方、キリスト教を扱うが南蛮文化との直接の関わりは認めにくい「南京の基督」「西方の人」などは含めなかった。

２．外来語・外国語一覧

（凡例）
・本調査で対象とした外来語とは、ポルトガル語などヨーロッパの言語をもとにした借用語とし、地名・人名などの固有名詞を含む。また、日本語になっていない外国語や混種語も採っている。例、「Guia do pecador」「Diabolus」「基督教国」
・複合語・語句・文は原則としてひとまとまりで採った。例、「切支丹宗門」「馬太伝」
・一作品で二回以上用いられている語は初出の箇所を採った。
・［　］は、その語に付されたふりがなまたは傍線・傍点を表す。
・（　）「　」は、本文通りの括弧の引用である。

16 点の初出と、『芥川龍之介全集』の底本および校訂方針は、個々の作品の項目に記す。いずれの作品も諸本間の異同が少なくなく、特に、初出時から単行本収録時の異同が多い。本稿では全作品の外来語・外国語を概観する目的で一律に『全集』本文を用いたが、いわば二次資料による調査であるため、今後の調査ではあらためて個々の作品ごとに異同を確認する必要がある。

以下で言及する単行本の書誌を記しておく。

『羅生門』1917 年 5 月 23 日発行、阿蘭陀書房
『煙草と悪魔』1917 年 11 月 10 日発行、新潮社
『鼻』1918 年 7 月 8 日発行、春陽堂
『傀儡師』1919 年 1 月 15 日発行、新潮社
『夜来の花』1921 年 3 月 14 日発行、新潮社
『影燈籠』1920 年 1 月 28 日発行、春陽堂
『戯作三昧他六篇』1921 年 9 月 8 日発行、春陽堂
『地獄変』1921 年 9 月 28 日発行、春陽堂
『點心』1922 年 5 月 20 日発行、金星堂
『沙羅の花』1922 年 8 月 13 日発行、改造社
『奇怪な再会』1922 年 10 月 25 日、金星堂
『春服』1923 年 5 月 18 日発行、春陽堂
『黄雀風』1924 年 7 月 18 日、新潮社
『百艸』1924 年 9 月 17 日発行、新潮社

『報恩記』1924 年 10 月 25 日発行、而立社
『芥川龍之介集』1925 年 4 月 1 日発行、新潮社
『湖南の扇』1927 年 6 月 20 日発行、文芸春秋社出版部

(1)**「悪魔と煙草」**『全集』第 2 巻

1916 年 11 月 1 日発行の『新思潮』第 1 年第 9 号に「煙草」の題で掲載された。のち、標題を現行のものにあらためて『煙草と悪魔』に、さらに『報恩記』に収められた。『全集』は『煙草と悪魔』所収のものを底本とし、初出以下と校合している。

全集頁	外国語・外来語
17	煙草
17	葡萄牙人[ポルトガルじん]
17	西班牙人[スペインじん]
17	伴天連[ばてれん]
17	フランシス上人
17	切支丹[きりしたん]宗門
17	パアテル
18	アナトオル・フランス
18	フランシス・ザヴイエル
18	伊留満[いるまん]
18	阿媽港[あまかは]
19	ドクトル・フアウスト
19	マルコ・ポオロ
19	波羅葦僧[はらいざう]
20	聖保羅[さんぽおろ]
20	イワン
23	珍陀[ちんだ]
23	波羅葦僧垤利阿利[はらいそてれある]
24	エス・クリスト
25	「ぢやぼ」
25	波宇寸低茂[はうちすも]
25	耶蘇基督[エス・クリスト]
26	因辺留濃[いんへるの]
26	毘留善麻利耶[びるぜんまりや]
26	泥烏須[でうす]
27	ペンタグラマ

27	ラフカディオ・ヘルン先生

(2)「尾形了斎覚え書」『全集』第 2 巻

1917 年 1 月 1 日発行の『新潮』第 26 巻第 1 号に掲載され、のち『羅生門』『鼻』『報恩記』に収められた。『全集』は『鼻』所収のものを底本とし、初出以下と校合している。

全集頁	外国語・外来語
47	切支丹宗門[きりしたんしうもん]
47	伴天連[ばてれん]
47	ろどりげ[傍線]
47	泥烏須如来[でうすによらい]
47	くるす[傍線]
50	はるれや[傍線]
52	懺悔[こひさん]

(3)「さまよへる猶太人」『全集』第 2 巻

1917 年 6 月 1 日発行の『新潮』第 26 巻第 6 号に掲載され、のち一部を削除して、『煙草と悪魔』に収められ、さらに『報恩記』に収録された。『全集』は『煙草と悪魔』所収のものを底本とし、初出以下と校合している。

全集頁	外国語・外来語
112	基督教国
112	猶太人[ゆだやじん]
112	伊太利
112	仏蘭西
112	英吉利
112	独逸
112	墺太利
112	西班牙
112	グスダヴ・ドオレ
112	ユウジアン・スウ
112	ドクタア・クロリイ
112	モンク・ルイズ
112	ルシフア
112	フイオナ・マクレオド
112	ウイリアム・シヤアプ

112	イエス・クリスト
112	カルタフイルス
112	アハスフエルス
112	ブタデウス
112	イサク・ラクエデム
112	イエルサレム
113	サンヘドリム
113	ピラト
113	ゴルゴタ
113	パウロ
113	アナニアス
113	ヨセフ
113	ムウニツヒ
113	ホオルマイエル
113	タツシエン・ブウフ
113	マシウ・パリス
113	セント・アルバンス
113	大アルメニア
113	騎士[ナイト]
113	フランドル
113	フイリツプ・ムスク
113	欧羅巴[ヨオロツパ]
114	ボヘミア
114	ココト
114	シユレスウイツヒ
114	バウル・フオン・アイツエン
114	ハムブルグ
114	マドリツド
114	ウイン
114	リウベツク
114	レヴエル
114	クラカウ
114	ルドルフ・ボトレウス
114	パリ
114	ナウムブルグ

114	ブラツセル
114	ライプツイツヒ
114	スタンフオド
114	サムエル・ウオリス
114	赤サルビア
114	羊蹄[ブラツドウアト]
114	麦酒[ビイル]
114	ムウニツヒ
114	ケムブリツヂ
114	オツクスフオオド
114	丁抹[デンマアク]
114	瑞典[スウエデン]
115	デルブロオ
115	ビブリオテエク・オリアンタアル
115	フアデイラ
115	アラビア
115	エルヴアン
115	Allah akubar[アラア　アクバアル]
115	パアテル・ノステル
115	念珠[こんたす]
115	毘留善麻利耶[びるぜんまりあ]
115	「ぎやまん」
115	羅面琴[らべいか]
116	Ｉ・Ｎ・Ｒ・Ｉ
116	ＭＳＳ．
116	フランシス・ザヴイエル
116	シメオン伊留満[いるまん]
116	ふらんしす上人
116	ゆだやびと
116	ペツク
116	「ヒストリイ・オヴ・スタンフオオド」
118	ボタン
118	ズボン
118	リンネル
118	サムエル・ウオリス

118	波羅葦僧[はらいそう]
119	ウルスラ上人
119	パトリツク上人
119	エルサレム
119	よせふ
119	えるされむ
119	ぴらと
119	パリサイ
120	ナザレ
120	ナルド
120	羅馬
122	馬太伝
122	馬可伝
122	ベリンググツド
122	ペン

(4)「悪魔」『全集』第 3 巻

1918 年 6 月 1 日発行の『青年文壇』（東亜堂雑誌部発行）第 3 巻第 6 号に「悪魔（小品）」の表題で掲載され、後、『點心』に収録された。『全集』は『點心』に収録されたものを底本とし、初出と校合している。

全集頁	外国語・外来語
205	伴天連[ばてれん]
205	うるがん[傍点]
205	泥烏須如来[でうすによらい]
206	十字架[くるす]
206	耶蘇基督[やそきりすと]

(5)「奉教人の死」『全集』第 3 巻

1918 年 9 月 1 日発行の『三田文学』第 9 巻第 9 号に掲載され、後、『傀儡師』『戯作三昧』『沙羅の花』『報恩記』『芥川龍之介集』に収録された。『全集』は『傀儡師』に収録されたものを底本とし、初出以下と校合している。

全集頁	外国語・外来語
249	Guia do pecador
249	Imitatione Christi

249	「さんた・るちや」
249	「えけれしや」（寺院）
249	「ろおれんぞ」
249	伴天連[ばてれん]
249	「はらいそ」（天国）
250	「でうす」（天主）
250	「ぜんちよ」（異教徒）
250	「こんたつ」（念珠[ねんじゆ]）
250	「いるまん」衆（法兄弟）
250	「すぺりおれす」（長老衆）
250	「しめおん」
250	「ればのん」山
253	「ぐろおりや」（栄光）
254	「ぜす・きりしと」
255	「ぢやぼ」（悪魔）
257	「くるす」（十字）
259	「びるぜん・まりや」
259	「こひさん」（懺悔）
260	「いんへるの」（地獄）
260	「まるちり」（殉教）
263	「れげんだ・おうれあ」

(6)「るしへる」『全集』第 3 巻

1918 年 11 月 1 日発行の『雄弁』第 9 巻第 12 号（「新人之世界」号）に掲載され、後、『傀儡師』『沙羅の花』『報恩記』『芥川龍之介集』に収録された。『全集』は『傀儡師』に収録されたものを底本とし、初出以下と校合している。

全集頁	外国語・外来語
281	輅斉布児[るしへる]
281	巴毗弇[はびあん]
281	DS[でうす]如来
282	Diabolus
282	DS[でうす]
282	「すひりつあるすすたんしや」
282	「はらいそ」
282	安助[あんじよ]（天使）

282	「いんへるの」
282	「るしへる」
282	「ぢやぼ」
282	「さひえんちいしも」
284	「さんた・まりあ」
284	伴天連
284	「あぽくりは」
284	懺悔[こひさん]
285	祈祷[おらしよ]
285	法服[あびと]
286	念珠[こんたつ]
286	提宇子[でうす]

⑺**「きりしとほろ上人伝」**『全集』第 4 巻

1919 年 3 月 1 日および 5 月 1 日発行の『新小説』第 24 年第 3、5 号に掲載された。後、『影燈籠』『地獄変』『沙羅の花』『報恩記』『芥川龍之介集』に収められた。『全集』は『影燈籠』に収録されたものを底本とし、初出以下と校合している。

全集頁	外国語・外来語
210	きりしとほろ
210	「れげんだ・あうれあ」
211	「しりあ」
211	「れぷろぼす」
211	「あんちをきや」
211	「しりや」
216	「ぺりしで」
216	「ごりあて」
218	珍陀[ちんだ]
218	悪魔[ぢやぼ]
221	「えじつと」
223	十字架[くるす]
224	「えす・きりしと」
229	天使[あんぢよ]
230	馬太[またい]

⑻**「じゆりあの・吉助」**『全集』第 5 巻

1919 年 9 月 1 日発行の『新小説』第 24 年第 9 号（「特殊作家小説」号）に掲載され、後、『影燈籠』『報恩記』に収録された。『全集』は『影燈籠』に収録されたものを底本とし、初出以下と校合している。

全集頁	外国語・外来語
94	じゆりあの[傍線]
95	切支丹宗門
95	べれん[傍線]
95	えす・きりすと[傍線]様
95	さんた・まりや[傍線]様
97	さんと・もんたに[傍線]

(9)「黒衣聖母」『全集』第 6 巻

1920 年 5 月 1 日発行の『文章倶楽部』第 5 年第 5 号に掲載され、後、『夜来の花』に収められ、さらに『奇怪な再会』『報恩記』『芥川龍之介集』に収録された。『全集』は『夜来の花』に収録されたものを底本とし、初出以下と校合している。

全集頁	外国語・外来語
80	「びるぜん、さんたまりや」様
80	「けれんど」
80	麻利耶[マリヤ]観音
80	卓子[テーブル]
80	切支丹宗門
80	キヤビネット
82	燐寸[まつち]
82	パイプ
84	童貞聖麻利耶[ビルゼンサンタマリヤ]様[さま]
85	霊魂[アニマ]
85	天主[デウス]
85	天使[アンジヨ]
87	DESINE FATA DEUM FLECTI SPERARE FRECANDO（「汝の祈禱、神々の定め給ふ所を動かすべしと望む勿れ」の意。）

(10)「神神の微笑」『全集』第 8 巻

1922 年 1 月 1 日発行の『新小説』第 27 年第 1 号に「神々の微笑」の題で掲載され、のち一部を削除して『春服』、さらに『報恩記』に収められた。『全集』は『春服』に収録されたものを底本とし、初出以下と校合している。

全集頁	外国語・外来語
188	Padre Organtino
188	アビト[法衣]
188	オルガンテイノ
188	羅馬[ローマ]
188	リスボア
188	羅面琴[ラベイカ]
188	アニマ[霊魂]
188	泥烏須[デウス](神)
189	沙室[シヤム]
189	印度[インド]
190	フレスコ
190	サン・ミグエル
190	モオゼ
190	金雀花[にしだ]
190	泥烏須如来
190	波羅葦増[はらいそ](天界)
190	埃及[エジプト]
193	Bacchanalia
195	ランプ
196	アントニオ上人
200	悉達多[したあるた]
201	希臘[ぎりしや]
201	パン
203	アヴエ・マリア
203	パアドレ・オルガンテイノ
203	甲比丹[カピタン]
203	ウルガン伴天連[バテレン]

(11)「報恩記」『全集』第 9 巻

1922 年 4 月 1 日発行の『中央公論』第 37 年第 4 号（「春季大付録号」）に掲載され、後、『春服』『報恩記』に収録された。『全集』では、『春服』に収録されたものを底本とし、初出以下と校合した。

全集頁	外国語・外来語
65	阿嫣港[あまかは]
65	伴天連[ばてれん]
65	呂宋[るそん]
66	甲比丹[かぴたん]
66	「まるどなど」
66	「さん・ふらんしすこ」
66	「まりや」
66	「みさ」
66	「ぽうろ」
66	「いんへるの」
67	摩利伽[まりか]
67	沙室[しやむろ]
68	葡萄牙[ぽるとがる]
70	「えす・きりすと」
72	大十字[おほくるす]
74	「ふすた」船
82	「はらいそ」（天国）
82	「いんへる」（地獄）
83	沙室屋[しやむろや]
84	「ぺれいら」
86	「えそぽ」

(12)**「長崎小品」**『全集』第 9 巻

1922 年 6 月 4 日発行の『サンデー毎日』第 1 年第 10 号に掲載され、後、『百艸』に収録、さらに 1925 年 3 月 17 日、四紅社発行の永見徳太郎著の戯曲集『阿蘭陀の花』の巻頭に「序に換ふる小品」の表題で掲載された。『全集』では、『百艸』に収録されたものを底本とし、初出、『阿蘭陀の花』と校合している。

全集頁	外国語・外来語
144	硝子[ガラス]
144	更紗
144	ちやるめら
144	蘭人
144	甲比丹[かぴたん]
144	鸚鵡[あうむ]

145	阿蘭陀[オランダ]出来
145	伴天連[ばてれん]
145	パアドレ
145	サアベル式
145	基督
145	波群葦増[はらゐそ]
145	麻利耶[マリヤ]観音
147	英吉利人[イギリスじん]
147	仏朗西人[フランスじん]
147	露西亜人[ロシヤじん]
148	コレクション

(13)「おぎん」『全集』第 9 巻

1922 年 9 月 1 日発行の『中央公論』第 37 年第 10 号（「秋季大付録号」）に掲載され、後、『春服』『報恩記』『芥川龍之介集』に収録された。『全集』は『春服』に収録されたものを底本とし、初出以下と校合している。

全集頁	外国語・外来語
208	さん・じよあん・ばちすた[傍線]
208	みげる[傍線]弥兵衛
209	仏蘭西[ふらんす]
209	ジエスウイツト
209	霊魂[アニマ]
209	ジアン・クラツセ
209	「いんへるの」
209	じよあん[傍線]孫七
209	ばぷちずも[傍線]
209	まりや[傍線]
209	さんた・まりあ[傍線]様
209	ぜすす[傍線]
210	ぱん
210	さがらめんと[傍線]
210	じよあんな[傍線]おすみ
210	えわ[傍線]
210	あんめい
210	なたら[傍線]（降誕祭）[くりすます]

210	ぜすす[傍線]様
211	あにま[傍線]（霊魂）[アニマ]
211	べれん[傍線]
211	はらいそ[傍線]（天国）
212	がぶりえる[傍線]
214	いんへるの[傍線]
215	はらいそ[傍線]
215	あにま[傍線]

(14)「おしの」『全集』第 10 巻

1923 年 4 月 1 日発行の『中央公論』第 38 年第 4 号に掲載され、後、『黄雀風』『報恩記』『芥川龍之介集』に収録された。『全集』は『黄雀風』に収録されたものを底本とし、初出以下と校合している。

全集頁	外国語・外来語
38	ゴティツク風
38	レクトリウム
38	「あびと」
38	「こんたつ」
40	カテキスタ
40	ファビアン
41	基督
42	デウス
42	ジユデア
42	ベレン
42	ジエズス・キリストス
42	マリヤ
43	メシア
43	ヘロデ王
43	ヨハネ
43	マグダラ
43	ラザル
43	ジエルサレム
44	エリ、エリ、ラマサバクタニ

(15)「**糸女覚え書**」『全集』第 10 巻

1924 年 1 月 1 日発行の『中央公論』第 39 年第 1 号に掲載され、後、『黄雀風』『報恩記』に収録された。『全集』は『黄雀風』に収録されたものを底本とし、初出以下と校合している。

全集頁	外国語・外来語
218	「かなりや」
219	「まりや」様
219	「おらつしよ」
220	羅甸[らてん]
220	「のす、のす」
220	「えそぽ物語」
224	「きりすと」
225	「はらいそ」
226	切支丹
226	「いんへるの」
226	「あるかんじよ」（大天使）
226	「えす・きりすと」
226	「ぐれごり屋」
226	伴天連
226	「いるまん」（役僧）
227	「みさ」

(16)「**誘惑**」『全集』第 14 巻

1927 年 4 月 1 日発行の『改造』第 9 巻第 4 号に掲載され、後、『湖南の扇』に収録された。『全集』は『湖南の扇』に週刊されたものを底本とし、初出と校合している。

全集頁	外国語・外来語
196	シナリオ
196	せばすちあん
196	さんたまりや
196	どみいご
196	どみいご、ふらんしすこ
197	ナイフ
198	「さん・せばすちあん」
199	パイプ

199	「ふらすこ」
199	「花かすていら」
201	テエブル
201	トランプ
203	マントル
203	ピストル
204	基督
205	ギタア
206	タイプライタア
206	ヒステリイ
207	ナポレオン
208	カッフエ
209	金鈕[きんぼたん]
210	Judas
210	ユダ
210	マッサァヂ
211	スフィンクス
212	オレンヂ
214	スペイド

３．小まとめ

芥川「切支丹物」の外来語・外国語は、文字の種類（カタカナ・ひらがな・漢字)、符号の有無、ふりがなの有無など、表記方法は多岐にわたっており、作品ごと、語ごとに異なっている。同じキリシタン用語であっても、「DS[でうす]」「泥烏須[デウス]」天主[デウス]」など、おそらく典拠や芥川の表現意図によって表記が異なっている。

参考文献

池田悠子（1991）「外来語の表現という観点からみた作家の表現特性：芥川龍之介の語彙に関する国語学的研究」、『昭和女子大学大学院日本文学紀要』2、pp. 66-82

池田悠子（1993）「芥川龍之介と志賀直哉との小説における表現特性としての外来語」、『昭和女子大学大学院日本文学紀要』4、pp. 68-56

楳垣実（1964）「芥川竜之介のキリシタン用語」、『言語生活』157（1964 年 10 月号)、pp. 42-46

海老井英次（2002）「吉利支丹物」、志村有弘編『芥川龍之介大事典』勉誠出版、pp. 84-85

（謝辞）
本稿を作成するにあたり、城田一樹氏による 2018 年度大阪大学卒業論文「芥川龍之介の切支丹物「奉教人の死」における表記方法」を参照させていただいた。また、第 11 回京都府立大学国語学研究会（2020 年 9 月 23 日、オンライン開催）での口頭発表「芥川龍之介「きりしとほろ上人伝」（1919）の外来語表記と漢語」にて賜ったご意見を取り入れた部分がある。記して謝意を申し上げる。